

こんにちは！ 名寄市長 加藤剛士です

Vol.14

「名寄市観光振興計画」

～あらためて、このまちを愛することからはじめよう～

このコーナーは、Airてっし（エフエムなよろ）との共同企画で、テーマを市長が設定し、本誌ではコラムとして、Airてっしではパーソナリティーとの対談で放送いたします。

「第30回名寄ピヤシリ歩くスキー大会」が、3月4日になよろ健康の森クロスカントリーコースで開かれ、名寄市内外から多くの皆さんにご参加いただきました。私も午後からの公務も考えて、少し控え目に3kmに出場しました。恥ずかしながら、名寄市長でありながら、歩くスキーの経験があまり無い上に、本コースで滑るのも初めての経験です。スキーを装着するのままたならず、係の皆さんにお手伝いしてもらって、ようやく何分か遅れてスタートしました。

この日の朝の気温は、マイナス20度を下回る冷え込み。突き抜けるような青空とどこまでも続く真っ白な雪原に、野鳥の姿や野ウサギの足跡。しばらく進むとカラマツと白樺の雑木林を抜けて、名寄市街の景色が広がります。そして道立公園内を走ると、眼前には天文台きたすばるの美しい姿がまた雪山とマッチして…。移り変わる自然の雄大な景色と人間の英知とのコントラストに圧倒され、あまりの美しさになんとも言えない気分になりました。「あらためてこんな贅沢な環境に生きている。お金に代えられない豊かさを我々は享受している」。筋肉痛はもちろんですが、そのすばらしい光景と感動が心に残りました。

今年の冬は最後まで雪も多く、何より冷え込みが厳しい日が続きました。お陰様でピヤシリスキー場は最高のコンディションが長く続き、また、冬の各種イベントも成功裏に終了することができました。

雪に4～5カ月は埋もれる名寄市。今シーズンは特に雪はねで大変ご苦労された方も多く、冬が辛いと考える方も、あるいは、このことを「格差」と捉えて卑下する方もいらっしゃるかもしれません。地域間の違いをマイナスに捉えれば「格差」になるし、プラスに捉えればそれは「個性」になります。そして、この「違い」がエネルギーに。違い（特徴）が大きければ大きいほど、何

かを生み出すエネルギーも大きくなるのだと、あるまちづくりの講演会で学びました。

平成24年度から、いよいよ「名寄市観光振興計画」がスタートします。観光はビジネスですから、最終的な目標は交流人口の拡大や地域経済の活性化になります。しかし、その根底に無くてはならないのは、名寄市民が名寄市に誇りを持って生活をしているということ、つまり、このまちを愛していることであり、それなくして目標の実現は望めません。そのために、本計画では、あらためて名寄市の特徴（違い）と財産を再認識、あるいは掘り起こすことからスタートすることをうたっています。私は、今の状況をしっかりと捉え、違いをプラスに変える視点はもちろんのこと、名寄市全体で「名寄市が大好きだし、さらなる可能性に満ち溢れ、そんな名寄市をもっともっと多くの皆さんに知ってもらいたい」という雰囲気盛り上げていくことが、観光のみならず、あらゆる地域振興につながると考えています。

新キャラクターの開発や育成をはじめ、市民全体で取り組んでいただきたい新しいプランも沢山あります。失敗してもいい、とにかく色々な可能性にチャレンジしていきましょう。名寄市をさらに盛り上げていくために、皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

※この企画のAirてっしでの放送時間は、毎月1日と10日の午前と午後の予定。土・日のときは、その翌日の放送となります。



「名寄市からのお知らせ」を放送中

市からのお知らせやイベント情報などを紹介しています。

放送＝毎週月～金曜日 ① 8:10から ② 12:30から ③ 17:10から